

協立病院の理念

人権と人格を尊重した、
こころとからだの総合診
療とケアを実践する

協立病院だより

No.93 2024年 1月号

発行：みさと協立病院

〒341-0016 埼玉県三郷市田中新田273-1
TEL 048 (959) 1811/FAX 048 (959) 1819
<http://www.tokyo-kinikai.com/misato/>

新年あけまして おめでとうございます

新年のご挨拶

副院長 矢花 孝文



皆様、謹んで新
春のお喜びを申し
上げます。

2023年の海
外の戦地の状況を
想像したり、国内
社会の動向を振り
返ったりしてみ
ると、強い立場に
いる人たちが弱い立
場の人たちの「人
権」を踏みにじっ
て平気な顔をして
いる、という恐ろ
しい現実に怒りを
覚えます。

世界にはどうし
てこんなに暴力が
あふれているので
しょうか。
暴力とは、自ら
の「正義」を一方
的に主張して、問
答無用とばかり、
自分と異なる意見
に耳を貸さずに物
事を決めてしま
う言動です。

暴力に結びつきや
すい「正義の論理」
に対抗するために
は、「ケアの倫理」
が大切であること
を私たちは学ん
できました。

ケアには、「世
話をする、気づか
う、大切に扱う」
などの意味があり
ます。家庭や施設
社会全般の中で行
われているケアと
は、「他者の手を
借りなければ自ら
の生存を維持する
のに困難を抱える
人たちのために、
生きるために必要
なもの（ニーズ）
を充足する活動」
といえます。

「ケアの倫理」で
は、自分の「正義」
は棚上げして、相
手の気持ちや考え
をよく聞き、お互
いが良い方向に変
わることを目指し
て「対話」するこ
とを重視します。

対話によって初め
て、お互いのニ
ーズやその違いを理
解し、相手のニ
ーズを満たすための
ケアをすることが
可能になります。

「相手にはこれが
必要なはずだ」と
一方的に押し付け
れば、ケアにはな
りません。そうい
う意味で、良いケ
アとは、それぞれ
の状況に即した個
別的なものです。

私たちは、「弱
い立場の方々の声
をきちんと聴いて
いるだろうか」、
「医療や福祉サー
ビスを提供する側
の都合で、サービ
スを利用している
方々に過大な負
担を強いていても
しょうがないこ
とだ」と思考停止
していただろう
か」と、自らを振
り返ることを習慣
にしたいと思いま
す。

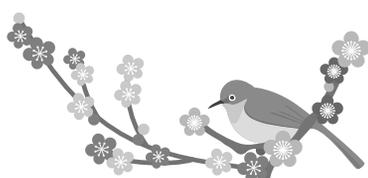
そして、「一人
ひとりの声と物語
が大切にされるよ
うな、顔の見える
人の繋がりをつ
くっていく」こと
を目指し、「ケア
しケアされる人間
関係を軸に据えた
社会づくり」のた
めに努力したいと
願っています。

次に、病院と地
域との関係を考え
ますと、これまで
に築いてきた様々
な支援者の方々と
の信頼関係を基盤
に、支援のネット
ワークの一翼を担
い、「健康な地域
づくり」のために
少しでも貢献した
いと考えています。
その際の目標を、
以下の3つにまと
めてみました。

- ① SOSを出せて
いない人や、制度
の狭間にいて既存
のサービスを受け
られないでいる人
の存在に気づき、
つながり、生きづ
らさの克服を一緒
に考えていく
- ② 困難な状況に置
かれ孤立している
人にも、「居場所」
と呼べるような安
心していられる場
を用意する
- ③ 精神科では、
「できるだけ入院
治療に頼らないで
済むような支援の
ネットワーク」を
つくる

以上のような目
標実現のために、
病院としてどんな
ことができるのか
地域の皆様と協力
し行動していきたい
と思っております。
「小さな変化の連
鎖が、思いがけな
い大きな変化を生
み出すこと」を期
待して、日々実践
していきましよう。
地域の皆様には、
今年もご支援の程
よろしくお願い申
し上げます。

そして、2024
年が皆様にとつて、
実り豊かな日々で
ありますようにお
祈りいたします。



友の会だより

編集 みさと協立友の会

048-959-1811 No.93

ちよっと いい話

20

冬の故郷

母ちゃん、泣くな!

寒い冬の朝。新潟の田舎のことを思い出す。もう七〇数年前、六、七歳のころの話になる。

木片の音が聞こえる。夕飯のあとの夜なべ仕事だった。囲炉裏にたき木が燃えている。

現金収入の少ない農家、いくらにもならない小遣い稼ぎを毎晩遅くまでやっていた。少年はそばのこたつで顔だけ出し、猫を抱いて丸まっているときもあれば、奥の寝間で母を待ちながら寝ていることもあった。外は北風。母があまりにも遅く、さびしくて、泣きながら囲炉裏へ走ったこともあった。

家族の前では涙など見せたことのない母が、布団の中で声を押し殺して泣いていたこともあった。両手で顔を覆い、背をふるわせていた。初めてみる母の泣く姿。驚き、不安。一体何があったのか。どんなことがあったのか。少年の小さな胸はつぶれそうだった。

「母ちゃん、泣くな」

そう言いながら母にすがりついた。ハツとした表情の母が、少年を強く抱きしめた。

母に何もしてやれない自分が情けなくて哀しかった。

(玄間太郎)



家の者が寝静まった夜。カタッ、コトッ、カタ、コト。囲炉裏端で母がひとり炭俵を編んでいる。その重しの

農作業の疲れ、さまざまな気苦労。毎日くたくただったの、だろ。夫を病気で失い、一人でなにかも背負わねばならなかった。寝てしまえば浮世のこと

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。昨年は4年ぶりの対面での友の会総会や地域の方々と一緒に集えた「みさと協立病院 健康まつり」の実現など新型コロナウイルスやインフルエンザの流行と向き合いながらも一歩前進した年でした。今年度もさらに地域での活動を重視し会員の皆様と力を合わせ、学習会やフレイル予防、脳活に良いとされる「おしゃべり会」なども開催したいと思っております。世界中の争いが一刻も早く終結し平和とくらしを守り安心して住みつけられる街づくり実現のため行動を進めます。どうぞよろしくお祈り致します。

皆様の健康を祈念し新年のあいさつと致します。

友の会会長

藤元 美彌子

第百五十二回 友の会【川柳の会】

題 「味噌」

- 味噌造り親族集い豆を踏む 信子
- たきたての釜のおこげで味噌にぎり みさ子
- 味噌をとく兄の姿に胸つまり 智子
- 減税の財源言えずミソ付ける たけどん
- みそ汁のにおいでおめぎしてみたい 良子
- 厚切りの大根に合う柚子とみそ みねこ
- AIの脳は半導体がミソ あきらら

サークルのお申し込み、お問い合わせは友の会事務局 048-959-1811 総務課まで

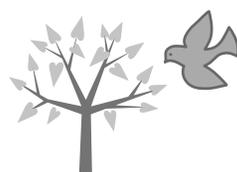
笑いの玉手箱 川柳の会

毎月第4木曜日
午後1時30分～
3時30分
場所：いこいの家717

課題作品 3句
自由作品 3句
を持ち寄って、内容を吟味します。
投稿だけでも歓迎です。

ボランティア活動者の交流 ボランティア班

3ヶ月に1度程度の割合で、ボランティア活動者の交流会を行い、活動の交流や学習を行ないたいと思います。



ちよっと出かけてみませんか?

小さな旅の会

3ヶ月に1回くらい出掛けます。

費用は行き先で決まります。



会費納入にご協力ください (ゆうちょ銀行)
口座番号 00510-4 記号番号 44659
みさと協立病院友の会 中川 一秀